

東9 センシング技術やAIを活用した故障予測技術

求める技術：①⑦

1 課題を抱える業務の内容

安定給水を確保するためには、設備の健全性を維持することが不可欠です。このため、浄水場等の水道施設で使用するポンプや制御盤などの設備機器について、日常的に点検を行っています。この点検では、職員の五感を使って、音や振動などから異常の確認を行ったり、電流、電圧などの計測値の記録、各種警報の有無の確認を行っています。

2 課題の詳細

点検の対象となる数多くの水道施設は、各地に点在しており、施設の点検には多くの人員と時間を要しています。また、職員の経験値には個人差があり、全ての職員が異常の前兆を確実に把握することは難しい状況です。

3 こんな技術を求めています！

- ▶ 多くの設備機器の点検作業を省力化・効率化する技術、故障の前兆を確実に把握できる技術
- ▶ 想定される技術：センシング技術（焦げ臭さや薬品の臭い等を検知できるセンサー）、AIによる故障予測技術 など

4 技術の導入により代替が期待される業務

- ▶ 日常点検の省力化（設備機器の故障に伴う異臭等に対してセンシング技術を活用して常時遠隔監視）
- ▶ 予防保全業務の充実（収集した設備の運転データをAIで解析し、機器の異常及び故障の予兆を検知）

5 事業規模・業務量

日常点検ではポンプ設備や電気設備等について点検を行っており、設備によって点検回数が異なります。多いものでは週5回以上点検する設備もあります。

横1 一般家庭における用途毎の水道使用量の把握

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

水需要予測を実施するにあたり、信頼性の高い予測とするため、一般家庭における風呂や台所、トイレなどの用途毎の水の利用実態を把握するための調査をしています。

調査方法は、各蛇口に測定機器を設置して、用途毎の使用水量を計測しています。

2 課題の詳細

現状、蛇口には水量メーターが設置されていないため、調査時にメーター等の計測機器の設置が必要となり、労力がかかっています。また、計測したデータの精度が高くないため、各蛇口の使用水量を算出する際に、多くのデータ処理が必要となり、多くの時間や労力を要すること等が課題となっています。

3 こんな技術を求めています！

➤ 工事不要で家庭の蛇口毎の水道使用量を高精度かつ容易に計測する技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

➤ 設置作業の簡素化、データの補正作業等（令和4年度に一般家庭水利用実態調査等業務委託内で実施）

5 事業規模・業務量

➤ 機器設置業務 3人/日（設置に掛かる時間 2時間/1戸）

➤ データ補正作業 5時間/1戸

（参考）令和4年度業務委託契約金額：約2000万円（機器の設置箇所：約100戸、その他モニター募集等含む）



写真 測定機器設置の様子

横2 水管橋及び橋梁添架管の補修工事時期の予測診断技術

求める技術：①⑦

1 課題を抱える業務の内容

水管橋や橋梁添架管等は、定期的な目視による点検結果に基づき、計画的に塗装等の補修工事を施工していますが、管の劣化及び腐食状況等について、目視による判断ではなく、定量的な診断と評価に基づくメンテナンスが必要と考えています。

2 課題の詳細

水管橋等の露出管は主に鋼管を使用していますが、ダクタイル鋳鉄製やステンレス製等、複数の管種が存在しています。防食処理の方法についても、塗装の塗替えや防食テープによる補修などがありますが、補修する材料は複数の種類があります。

現在は、目視による点検結果に基づき、管の腐食状況や劣化状況を判断していますが、防食テープ下の管の状況や、管内面の劣化状況の確認は目視で判断することは困難なため、管の補修時期や更新時期を判断する上で、課題となっています。

3 こんな技術を求めています！

- 管材質、既存外面防錆方法による、外装更新(塗替え・補修)時期の予測算出
- 内外面劣化進展予測に基づく、布設替え時期の予測算出
(可能であればいずれも、概算費用の算出まで含む)
- 管材質に基づく内面劣化予測 (可能であれば通水下での診断技術含む)

4 技術の導入により代替が期待される業務

水管橋定期点検時、防食・更新計画を策定するために行う詳細な劣化状況確認

5 事業規模・業務量

- 定期点検：7事務所について、それぞれ担当職員3名が年間延べ20日程度（目視のみ）
- 市内水管橋件数：787橋
- 点検頻度：1回/年

横4 コンクリート構造物の状態監視を効率化かつ客観的に実施するための新技術

求める技術：①⑦

1 課題を抱える業務の内容

横浜市水道局では、配水池（鉄筋コンクリート造）の維持管理の一環として、配水池の清掃等で水を抜くタイミングに合わせ、配水池内部の定期点検を実施しています。定期点検では、配水池内部の壁面及び柱等の劣化状況を目視確認しており、この結果を余寿命の予測や維持管理手法の検討に活用する取組を行っています。



2 課題の詳細

人による目視調査では、人的誤差により客観性に課題があるほか、膨大な人数・時間を要します。自動検出技術や画像診断技術等を用いることで人的誤差を減らし、配水池の劣化状況をより客観的に捉えることができるほか、機械的な処理により人員・時間の縮減につながります。さらに、データを蓄積し精度を向上させることで、より正確な余寿命の予測や適切な維持管理手法の検討へと活用できます。

3 こんな技術を求めています！

- 鉄筋コンクリートの劣化状態を自動検出・診断し、さらに今後の劣化について予測する技術
- 想定される技術：ひび割れや剥落・損傷の自動検出技術、コンクリートの自動診断技術、劣化予測技術 など

4 技術の導入により代替が期待される業務

目視調査業務、劣化度・健全度評価（現在は業務委託し、目視にて実施）

5 事業規模・業務量

（参考）配水池点検及び目視調査業務 金額：約1,000万円/年 程度を想定

横8 管路工事進捗一元管理システム

求める技術：①③⑩

1 課題を抱える業務の内容

老朽管の更新・耐震化事業として年間約150件の管路工事を発注しています。管路工事の進捗管理は3段階あり、(1)工事担当課の監督・設計の職員が、工事ごとに金額や進捗等を管理する個別工事の管理 (2)同じく工事担当課の事務職員が行う課が担う複数工事の進捗管理(3)統括課が行うそれぞれの工事担当課を合わせた事業全体の複数工事の管理があります。

2 課題の詳細

現状上記の(1)(2)(3)の業務はエクセルで行っておりますが、①当初予定から、工事の変更、消去、追加、組み換え等が頻繁に行われること、②個別工事の管理と複数工事の管理は別で行っていること、③エクセルに詳しい職員でないと、工事管理の項目追加操作等ができない等属人化していることにより、管理が煩雑になっています。

3 こんな技術を求めています！

エクセルでの管理に代わる、個別工事の進捗管理と複数工事の横断管理が円滑に行えるシステム

- ・個別工事の進捗管理、複数工事の横断管理がひとつのシステム上で可能
- ・属人化せず、誰でも直感的に操作可能
- ・システムを見れば一目で状況がわかる、情報共有が容易
- ・工事の変更、消去、組み換え等が可能
- ・関連工事の紐づけが可能
- ・進捗管理できる要素が容易に追加可能（スケジュール、金額、延長等）

4 技術の導入により代替が期待される業務

エクセルを用いた個別工事、複数工事進捗管理業務

5 事業規模・業務量

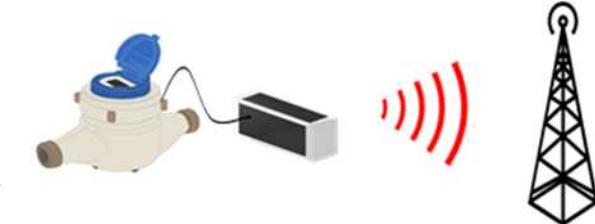
発注工事件数：※約150件/年 ※：令和6年度実績

大3 水道スマートメーターデータの他分野への利活用

求める技術：①⑪

1 課題を抱える業務の内容

将来の市内全域への導入拡大をめざし、水道スマートメーターの導入に向けた課題と効果を整理し、新たな活用策による付加価値の創出を図ります。市域の一部エリアへの先行導入や、産学官連携による実証実験の実施により、様々な課題の検証や技術面・業務面でのノウハウの蓄積を行っています。



2 課題の詳細

水道スマートメーターは従来の機械式メーターに比べて費用が高いことから、導入拡大に向けては費用対効果の向上が課題となっています。そのため、費用低減に向けた取組を進める一方で、ビッグデータの利活用による新たなサービスといった新たな付加価値を創出する必要があります。

3 こんな技術を求めています！

- 水道スマートメーターのビッグデータを水道事業以外の他分野で活用する技術・アイデア
想定される技術：都市計画・防災計画、マーケティング、省エネ、ヘルスケアなどへ活用する技術（データ分析、AIなど）
技術を活用してどのようなサービスが可能となるかの提案も期待します。

神1 漏水事故や水質汚染などの迅速な情報収集

求める技術：①⑧

1 課題を抱える業務の内容

水道施設の適切な維持管理においては、漏水を早期に発見し修理することで、事故を未然に防ぐ取組みを進めていますが、それでも多くの漏水は、一般の方からの通報により対応しているのが実情です。河川の水質事故では、ほとんどが関係機関からの通報となっています。

一方で、スマートフォンの普及により、漏水事故や水質汚染を疑わせるような写真が、驚くほどのスピードでSNSに投稿され、拡散していきます。

2 課題の詳細

漏水事故や水質汚染の情報がすぐに入手できれば、通報システムよりも迅速に被害箇所等を把握することができます。

現在、一般からの通報を受けるシステムが開発されていますが、事前にアプリを登録するなどの準備が必要で、情報提供者には限りがあるため、これと併用して、SNSのサイトを巡回し必要な情報の収集と併せ、行政ネットワークとの連携が可能なシステムが望まれます。

3 こんな技術を求めています！

- 一般の方が、漏水や水質事故を通報し、地図情報に表示できるシステム
- SNS等のサイトを巡回し、給水区域内の漏水や水質に関する写真・位置情報の収集システム
- 行政ネットワークとの連携により、水道事業者が整備している水道施設台帳との情報共有が図れるシステム

神5 屋内ドローンによる設備巡回と状況モニタリング

求める技術：①⑦

1 課題を抱える業務の内容

水道施設の適切な維持管理のために、定期的な巡視を行っているが、経験の浅い職員が設備の異常を見落とす可能性があります。

2 課題の詳細

ポンプ所等巡回対象施設内において、ドローンに事前に写真撮影や機械設備の動作音をモニタリングするポイントを登録しておき、職員が施設を巡回に訪れた際に屋内型のドローンに自動巡回させます。職員はその間ドローンでは確認できない箇所を巡回します。

3 こんな技術を求めています！

➤ ドローンにより収集した画像や音声データを蓄積し、機械学習を用いた分析をしたうえで異常の有無を判定。また写真撮影したメータやカウンター等から数値をデータ化し、過去のデータとの比較によりAIを用いて異常の有無を判定。

4 技術の導入により代替が期待される業務

巡視の結果、設備の異常を見落とす可能性を減らせます。また、職員による施設の巡視箇所を減らすことが期待できます。

5 事業規模・業務量

設備ごとに 1回/月

名1 エネルギー消費原単位や温室効果ガス排出量等の集計自動化

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

名古屋市上下水道局では、エネルギー消費原単位や温室効果ガス排出量等の集計を行い、増減の原因分析やその対策の検討を実施しています。

2 課題の詳細

集計の対象となる施設数が多く、集計や分析に多大な労力と時間を費やしています。また、各部署毎の原因分析と対策の検討は毎月実施していますが、局全体の状況は半年毎の実績集計を実施しないと把握できません。

3 こんな技術を求めています！

- ▶ 施設・設備毎の電気及び燃料の使用量データの取り込みや、エネルギー消費原単位や温室効果ガス排出量の集計を自動化する技術
- ▶ 集計したデータを元に増減理由の分析や対策の検討が可能となる技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

省エネ法、温対法等のエネルギー使用量や温室効果ガス排出量等の報告書の作成。上下水道局の事業全体におけるエネルギー使用量や温室効果ガス排出量、廃棄物発生量及び用紙使用量等の局内での報告業務。

5 事業規模・業務量

作業頻度：2回/年 作業期間：1～2週間程度/回 費用：0円/年

新3 大量のデータを収集・分析する技術

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

アセットマネジメント推進のため、「必要情報の整備」を課題の一つとし、自らが取得・保有するデータを統合的に利活用するための体制整備と環境整備を進めている。

2 課題の詳細

日々の業務の中で蓄積される様々なデータは、それぞれ別々の場所やシステムに保存され、それらの取得や集計を手動で行うには時間と労力がかかる。

また、大量のデータの分析や評価もデータ解析などの専門知識が必要となるなど、職員自身がこれらを行うには非常に困難な状況が予想される。

3 こんな技術を求めています！

散在する大量のデータを素早く収集・集計・分析・評価をし、適切な意思決定へ寄与することができる技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

職員の手作業によるデータ収集・分析など

5 事業規模・業務量

新4 水道メーターの取替え及び購入計画の最適化

求める技術：①⑯

1 課題を抱える業務の内容

水道メーターは8年以内に取替えが必要となります。取替の多くは検定有効期限に伴う取替えで、取替個数やメーター保管を月単位で計画的に行う必要があり職員が取替計画とメーター購入計画を調整して取替えを行っています。

水道メーター



2 課題の詳細

水道メーターの取替えは、合併等により年度別取替数等に偏りがあり、メーター取替従事者減少の懸念から平準化が求められています。平準化を図るためのメーター購入計画が必要になりますが、取扱いメーターの種類の多さや委託先の担当地域別の制約、効率性から平準化が進んでいません。

3 こんな技術を求めています！

水道メーター取替計画とメーター購入計画を容易に月単位で地域別と全体で将来見込みを推定でき、平準化の最適解を示せる技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

水道メーター取替計画とメーター購入計画業務（実施計画・予算資料）
長期的な水道メーターに関する費用算出（アセットマネジメント）

5 事業規模・業務量

作業時間：約50～時間／年

福岡5 AIを活用した薬品注入の運転支援

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

浄水処理には薬品を注入する業務があり、薬品注入量の判断は、原水の濁度やPH値など様々な要因に対する職員の経験に基づいて行われていることから、豪雨などによる急激な濁度上昇時の対応等については、経験の浅い職員では対応が難しいものとなっています。

2 課題の詳細

薬品注入量の設定については、ベテラン職員がこれまでの経験に基づいて蓄積したノウハウから判断することが多く、今後、ベテラン職員が退職などにより不在となった場合、経験の浅い職員では、判断に時間を要すなど、将来的な対応が困難になることが懸念されています。

3 こんな技術を求めています！

➤ AIにベテラン職員の経験による注入実績を学習させ、注入量の予測値を算出することで、経験の浅い職員を支援する技術

想定される技術：AIを活用した薬品注入量の予測機能 など

京3　浄水場等運転状況、水質情報等の集中監視

求める技術：①②

1 課題を抱える業務の内容

取水から浄水、配水といった水道一連の水量、水質、処理状況等の情報を集約し、監視するためには、ベンダーの異なる監視制御システムの情報を収集・統合する必要があるため、コストと手間が大きく、集中監視システムの導入が困難な状況です。

2 課題の詳細

浄水場における処理状況や増圧ポンプの稼働状況、配水池の運用状況、水質情報等を一元的に集約し、監視、解析することで、最適な水処理、水運用に活かせ、震災時の確保水量の算定なども行えます。

さらに、施設・設備情報、管網情報などを加えることで、設備故障時の運用シミュレーションや残留塩素のより高度な管理などにも利用することが考えられます。

3 こんな技術を求めています！

- ベンダーの異なる監視制御システムの情報を、簡易かつより安価に集約できる技術
- 取り込んだ情報を解析し、演算、シミュレーション等を行える技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

運転管理業務・維持管理業務の効率化

静5 有収率改善に向けた水道DXソリューション

求める技術：①②⑦⑧

1 課題を抱える業務の内容

水道管の老朽化による更新需要の増大が要因で、改築工事や修繕工事の対応、大雨等の風水害や地震に対する対策などに遅れが生じています。また、水道管の漏水を調査できる熟練職員の不足により、管の破裂や漏水の頻度が上がるなど、有収率の改善が図れていません。

2 課題の詳細

管路の漏水調査（音聴調査）は毎年実施していますが、老朽化や劣化診断・予測について詳細な把握ができていません。管の漏水調査・劣化診断（劣化予測）・改築計画、また施設の送水圧力、流量、水質検査、薬品投入の作業を自動化できれば、職員の作業量の大幅な軽減につながります。

3 こんな技術を求めています！

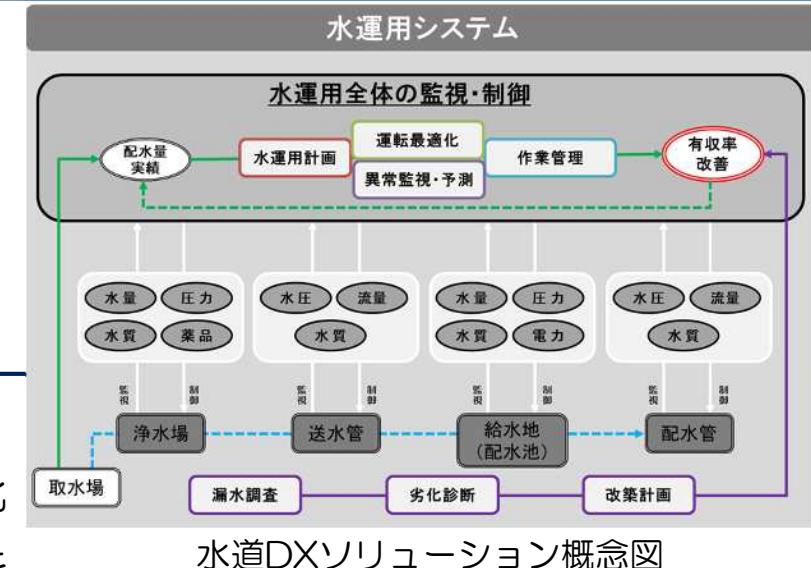
➤ 高精度な漏水調査、劣化診断、劣化予測（劣化予測）、改築・改修工事の計画、水運用までの技術
想定される技術：AIによる漏水検知、劣化診断（劣化予測）、薬品投入技術 など

4 技術の導入により代替が期待される業務

水運用計画、管・施設の監視や制御業務、漏水調査（音聴調査）、水質検査、薬品投入業務

5 事業規模・業務量

漏水調査費：8,000万円/年



神戸3 済水場における臭気監視の高度化

求める技術：①⑦

1 課題を抱える業務の内容

水質基準に定められている臭気が異常でない水道水を供給するため、済水場では、職員が定期的に原水・済水の官能試験を行い、臭気に異常がないことを確認しています。

また、異常を感知した場合は水質試験所に持ち帰り、機器による分析をおこなっています。



分析機器

2 課題の詳細

臭気確認は人の嗅覚に依存しているため、個人差や体調の変化に左右されやすく、また、わずかな臭気は感知できないなどの問題があります。このため、市民からの異臭苦情により発覚し、対応が遅れることも想定されます。

3 こんな技術を求めています！

➤ 原水、済水の異臭（カビ臭、薬品臭等）を臭気センサーでリアルタイム監視し、AIが臭気異常の判別をサポートする技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

済水場の臭気監視業務

5 事業規模・業務量

済水場職員が定期的に実施

福南1 各種データから原水水質悪化を予測するシステム

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

当企業団は筑後川表流水を主水源としていますが、降雨や河川流況により、その水質は大きく変化します。上流域で大雨が降った際には原水濁度の顕著な上昇、逆に降雨が少ない場合には河川流量の減少による原水水質の悪化（有機物の上昇）や、晴天や著しい高温が続く場合には浄水処理障害を引き起こす生物による原水水質の悪化（異臭味の発生、ろ過粒子数の上昇、ろ過障害等）が見られます。その発生時期には、水質検査頻度を増やし薬注処理の強化で対応しています。

2 課題の詳細

水質検査は浄水場内に到達した原水を用いて検査を始めるため、検査に時間を使い、対応の遅れが懸念されています。特に、土日祝など検査員不在時の予測ができれば、よりよい浄水処理が可能になると考えられます。

3 こんな技術を求めています！

上流ダム水質データ、気象予測、河川流量等から、取水口での原水水質悪化を予測するシステム

浜3 水道施設等における突発事故対応処理

求める技術： ①⑧

1 課題を抱える業務の内容

昨今の異常気象等（雷・風雨）の影響や水道管の老朽化により、水道施設の故障（電気系・通信系・制御系）や漏水が発生するが、職員による復旧作業時に故障箇所や原因がわからぬために対処できない場合があり、対応に苦慮している。

2 課題の詳細

- 職員間での技術レベルやノウハウ、経験等にバラつきがあるため、故障や漏水への対応ができず、迅速な復旧に支障がでる場合がある。

3 こんな技術を求めています！

- 施設異常発生時に各施設の設備（機器類）単位ごとに、故障箇所と故障内容を検知させ、その対処方法についてシミュレーションなどの結果を元に推測し、表示させることにより誰でも適切かつ迅速に復旧対応ができる技術。
- 漏水事故発生時に職員の経験値から判断していた現場対応を、管網図や遠方監視等のデータからAI等を活用し、水流方向や水量、漏水影響範囲等を予測し、サポートする技術。

4 技術の導入により代替が期待される業務

- 職員の初動対応（現地確認及び復旧対応の判断）

5 事業規模・業務量

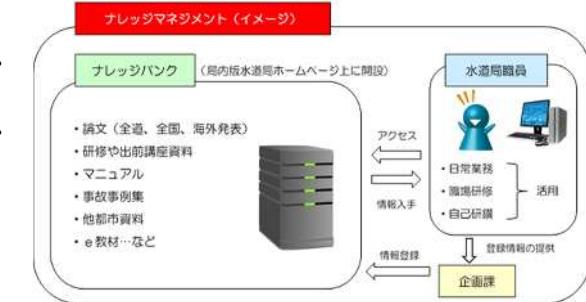
- 施設の異常発生毎

札1 ナレッジバンク構築・発展のシステム化

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

水道局内には、マニュアル化等によって共有されているデータ以外に、これまでにデータ化されていない、または各課・各係・個人で保管され、局全体では活用されていない有益な情報が多数存在しており、このような情報をナレッジバンクとして集約・整理しています。



2 課題の詳細

- 繙承すべき技術が見える化できていない
- 技術をどのように継承したらよいか分からぬ
- ナレッジバンクの構築がシステム化されていない
- ナレッジバンクの構築が面倒
- ナレッジバンク内の必要な情報に容易にたどり着けない

3 こんな技術を求めています！

- 繙承すべき知識・技術を洗い出し、整理・集約するシステム
- 知りたい知識・技術、継承すべき知識・技術を吸い上げて、ナレッジバンクを作成できるシステム
- 必要事項を入力すればナレッジバンクが生成できるシステム
- 自動でマニュアルや動画教材を作成できるシステム

4 技術の導入により代替が期待される業務

ナレッジバンク作成業務、マニュアル作成業務、動画教材作成業務

札5 水中のヒ素連續監視システム

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

他都市と比べ浄水場原水のヒ素濃度が高いため、原因となる自然湧水を含む河川水を抜本的に取り除くための事業を進めています。

ヒ素を含む自然湧水はPACを用いた沈殿処理後に河川へ放流しますが、自然湧水のヒ素濃度は取水地点の河川流量等の影響を受け変動するため、流入水質に応じた自動制御処理システムの導入が望まれます。

2 課題の詳細

- 処理対象水の流量、濃度が一定でないため薬品注入量、運転方法の設定を頻繁に変更する必要がある
 - 流入水・処理後のヒ素濃度をリアルタイムで把握する手段がない

3 こんな技術を求めています！

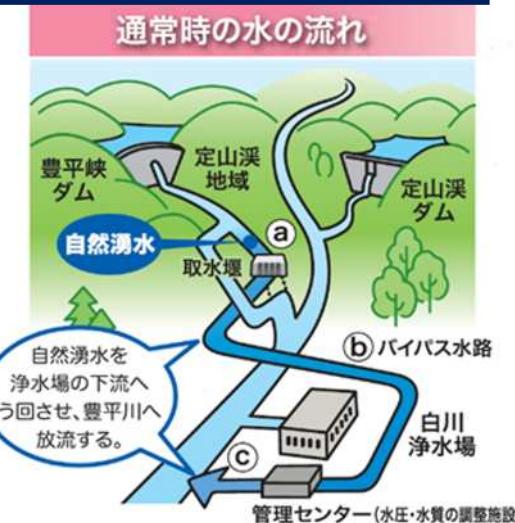
- 流入・放流水のヒ素濃度を自動かつ連続で計測できる技術
 - 流入量・流入水質に応じた薬品注入量の自動制御技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

現状ではヒ素濃度の代替として電気伝導速度を測定し、近似式からヒ素濃度を把握する予定ですが、ヒ素濃度を自動・連続監視することでより精度の高い測定、きめ細かい効率的な運転管理が可能になります。

5 事業規模・業務量

システムの導入が望まれる豊平川水道水源水質保全事業における最大の流入量・放流水は流量1.7m³/sを予定しています。また、計測頻度は毎日連続して測定する予定です。



札6 非開削による管体外面腐食調査

求める技術：①⑦

1 課題を抱える業務の内容

本市の管路延長は6,000kmを超えており、延命化や事業量の平準化などにより計画的に更新しています。

更新にあたっては、漏水の主原因である管の外面腐食を考慮し、布設地域の土質やポリエチレンスリーブの有無等で外面腐食度を推定し更新基準年数を設定していますが、実際の腐食状況は試掘や堀上撤去時に確認している状況で、事前に調査できる箇所は限られています。

2 課題の詳細

本市の管路は主にダクタイル鋳鉄管であり、管路の腐食状況を事前に把握するには試掘等の調査が必要であるため、調査できる箇所や延長は限られています。ICT技術の活用により非開削の調査が可能となれば、腐食を起因とした漏水発生を未然に防ぐことや、管路更新をより効率的に進めることができます。

3 こんな技術を求めています！

- 埋設された既設管路の外面腐食状況を非開削で調査する技術（電波・音波・衛星画像等）
- 調査結果から、腐食による漏水リスクを可視化する技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

現状では、水道管布設工事における試掘時や堀上撤去時に施工業者の協力を得て手作業で資料採取、腐食深さの測定を行ってきましたが、技術の導入により、調査業務の省力化、精度の向上が期待できます。

5 事業規模・業務量

札幌市内に布設されている配水管約6,000kmのうち、ポリエチレンスリーブが被覆されていない約1,900kmなどを対象とした調査が想定されます。

北3 点検結果からの劣化予測

求める技術： ①

1 課題を抱える業務の内容

本市では点検時にモバイル端末を活用し、点検記録のデータ化を行うとともに、故障・修繕情報、台帳情報などを一元管理するシステムを構築中です。しかし、データ化した維持管理情報からの劣化診断や効果的な修繕・更新計画の立案など具体的な活用方法については現在検討中です。

2 課題の詳細

維持管理情報を収集し、これらの情報を基に膨大なプラント設備の修繕・更新計画を策定するには多大な労力を要します。維持管理情報を一元管理するシステム内に、計画策定を自動化又は補助するような機能があれば、業務の効率化に繋がります。

3 こんな技術を求めています！

収集した維持管理情報から、自動的に最適な修繕・更新計画が策定できるようなツール

4 技術の導入により代替が期待される業務

計画策定業務

5 事業規模・業務量

作業頻度： 2回／年、作業時間：約20時間／回、作業人数：13

宇3 ICTを活用した料金収入・水需要予測・分析業務

求める技術：①②⑫

1 課題を抱える業務の内容

①料金収入予測業務において、過去の収入増減実績や、今後の人団減少等を考慮した予測を作成している。人口減少などに伴い水需要の減少が見込まれることから、需要予測に基づく効率的な水運用体制を確立する必要がある。

②毎月の料金収入の増減理由を分析している。

2 課題の詳細

①水需要や料金収入の予測にあたっては、猛暑や寒波等の気象要因のほか、新型コロナウイルス感染症などの特殊要因の影響による増減があり、予測が難しい面がある。また、予測に基づく効率的な水運用体制を確立することで運用コスト低減を図りたい。

②毎月、口径別（一般家庭・大口使用者）の収入分析や大口使用者の増減を分析しているが、増減理由を特定する事務量が膨大である。

3 こんな技術を求めています！

①人口予測や過去の気象要因、大規模開発、過去の料金収入実績等を入力し、ICTを活用し自動的に今後の水需要や料金収入を予測する技術

②口径別の収入状況等を入力し、増減理由を迅速に特定する技術

4 事業規模・業務量

①作業頻度：2回／年、作業時間：約20時間／回

②作業頻度：1回／月、作業時間：約10時間／回

川1 埋設された中大口径管路における高精度の健全度調査

求める技術：①④

1 課題を抱える業務の内容

導水や送水のための埋設された中大口径管路は、高度経済成長期に鋼管で整備しているものが多いことから、耐震性は確保されているものの、老朽化が進行しています。

現在、中大口径管路については布設年度や管種、口径、土質状況等を基に健全度を予測していますが、より精度の高い健全度を把握するためには、掘削や断水を実施し、内外面からの劣化診断を行うなど、実施の管体状況を細かく調査する必要があります。



中大口径管路の内面

2 課題の詳細

中大口径管路の健全度調査には内外面劣化診断が重要ですが、掘削には多くの費用がかかるとともに、断水にも大規模な水運用の変更のための時間と労力が不可欠です。掘削や断水をすることなく、精度の高い内外面劣化診断ができれば、多くの管路を同時に調査できるなど、調査期間や作業量の大幅な削減につながります。

3 こんな技術を求めています！

- 掘削や断水をすることなく管路の健全度が高精度で把握できる技術
想定される技術：水が流れる中のロボットによる内面劣化診断
掘削せずにレーダーなどによる外面劣化診断 など

4 技術の導入により代替が期待される業務

劣化の進行状況を踏まえた健全度調査業務（断水による目視調査、打音調査、掘削による管体調査など）

5 事業規模・業務量

（参考）断水を伴う内面劣化診断等による健全度調査

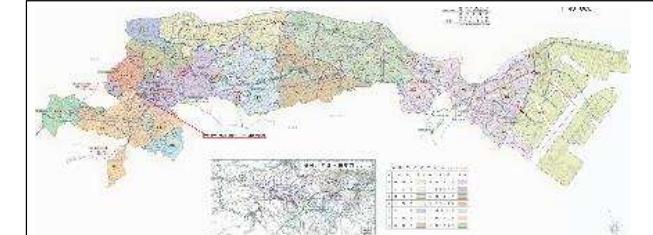
想定する鋼管の延長：導水管（約50km）、送水管・配水本管（約150km）

川2 配水ブロック流量の把握

求める技術：①②⑧

1 現状の課題

川崎市では、2万人～4万人を1つの単位とする中配水ブロックが40ブロックあります。各ブロックの注入点における流量が把握できており、配水管の更新計画や水圧管理、漏水防止対策をより効果的にできるように正確な流量の常時監視技術が求められます。



配水ブロック図

2 課題の詳細

各中配水ブロックの注入点（ $\phi 200\text{～}350$ ）は、2箇所～5箇所で中配水40ブロックの注入点は、合計100箇所を超えます。現在、各注入点に流量計は設置されており、管網解析の算定流量からブロックの水圧を把握し、配水管更新時の口径選定を実施しています。今後、中大口径管路（400mm以上の送・配水管）が一気に更新時期を迎えるため、適正な口径選定や更新時の水運用計画策定などのために正確な流量の把握が必要となっています。

3 こんな技術を求めています！

- ①200mm～350mmの流量計が不断水で設置可能であること
- ②流量の常時監視ができて、データ収集やイレギュラーアラーム機能（漏水検知など）があること
- ③メンテナンスが容易なこと
- ④震災時にも通信が可能なこと

4 技術の導入により代替が期待される業務

中大口径管路更新に関する各種委託の簡略化
漏水事故や災害時の初動調査

5 事業規模・業務量

流量計設置100箇所以上（最大流速 3.0m/s 程度）
定期メンテナンス1回/年程度

川3 残留塩素濃度の変化を予測するシステム

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

本市では水温の変動や塩素消費量等のデータを基に、残留塩素濃度の設定を年間13期間に細分化しています。水質自動測定装置により給水区域の水質状況を常時監視し、残留塩素濃度が高め（又は低め）に推移している場合は、浄水場配水池出口の残留塩素濃度を設定値よりも適宜低減化（又は強化）して対応しています。



水質自動測定装置

2 課題の詳細

水源での降雨による原水濁度の上昇や浄水場での粉末活性炭の注入開始等により、浄水処理後の水道水質の変化とともに、配水過程での塩素消費量も変化します。浄水場での塩素注入率の調整には、水質データ（有機物質の指標項目等）を参考にしますが、想定よりも塩素消費量が大きく変化することもあり、対応に苦慮しています。

3 こんな技術を求めています！

水源の水質、浄水場の原水・配水の水質、浄水場での塩素注入率、残留塩素濃度、天候、水温、配水量等のデータを元に、AIが水道水の残留塩素濃度を予測する技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

残留塩素濃度の管理業務（残留塩素濃度の設定、残塩消費量の監視、変動の予測等）

5 事業規模・業務量

日常業務

川4 浄水場における臭気の自動監視

求める技術：①⑦

1 課題を抱える業務の内容

本市は相模湖を水源としており、近年は夏季の藍藻類によるかび臭以外にも、珪藻類等による臭気異常のリスクが高まる事象が増えており、対応に苦慮しています。浄水場では臭気異常が起きないよう、職員が分析装置による臭気物質の測定、生物試験、臭気官能試験等を行っています。



臭気異常の原因生物（珪藻類）

2 課題の詳細

土日祝日など浄水場職員の不在時に、原水中の生物が短時間で急激に増加すると、臭気への対応が遅れてしまう場合があります。また、臭気官能試験については、嗅覚は個人差が大きく、体調の変化にも左右されやすいため、僅かな臭気を検知できない場合があります。

3 こんな技術を求めています！

原水及び浄水の臭気をセンサーで常時監視し、AIが様々な臭気異常の判別をサポートする技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

浄水場における臭気監視業務

5 事業規模・業務量

浄水場職員が日常及び臨時で実施

川5 ドローン等を活用した屋内設備の自動点検

求める技術：①⑦

1 課題を抱える業務の内容

川崎市は東西に伸びている地形から、遠方の配水池・ポンプ所等の水道設備点検には多大な時間と労力を要しています。また、人の目による点検では個人差があり、点検の精度という面においてはバラツキが生じる恐れがあります。さらに、災害時には限られた人員で複数の設備を確認する必要があり、迅速な対応が困難です。



川崎市の水道施設

2 課題の詳細

川崎市では、遠方の水道施設（配水池・配水塔・ポンプ所）の点検に多くの時間と労力がかかるており、車両移動による燃料消費や事故リスクも課題となっています。ドローンやロボット等を活用することで、無人での常時監視が可能となり、画像データによる点検精度の向上が期待されます。また、点検業務に従事していた職員を人手不足の現場へ配置転換することで、人的資源の有効活用にもつながります。さらに、地震などの災害時には、複数の設備を限られた人員で確認しなければならず、迅速な対応が困難となる恐れがあります。



配水池のポンプ設備

3 こんな技術を求めています！

➤ 非GPS環境で、かつ暗所・狭所でドローンやロボット等が安定飛行できる技術、AIによる劣化診断技術

想定される技術：新Visual-SLAM技術 など

4 技術の導入により代替が期待される業務

目視点検業務の自動化、異常検知業務の高度化、記録・報告業務の効率化、危険作業の回避、災害時巡回点検

5 事業規模・業務量

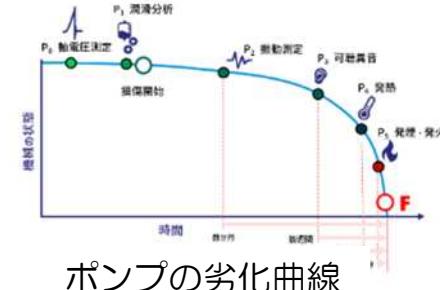
ポンプ設備を有する無人施設：7か所、巡回頻度：週1回、点検頻度：月1回

川7 ポンプ設備の延命予測システム

求める技術：①⑦

1 課題を抱える業務の内容

現在、浄水場をはじめとする水道施設では、設備の老朽化が進行しており、更新時期を間近に迎えています。しかし、昨今の物価高騰の影響により、更新に必要な予算の確保が困難な状況が予想されています。今後は、延命予測システムの導入や、修繕計画の見直し、更新時期の最適化など、財政状況に応じた柔軟な対応が求められます。



2 課題の詳細

現在の厳しい財政状況を踏まえると、高額な設備更新は非常に困難です。特に水道の要であるポンプ設備については、延命を前提とした運用が求められています。これまで川崎市では、水の安定供給を最優先とし、ポンプ設備の早期更新を計画・実施してきました。しかし、近年の物価高騰により、見積額が従来の倍以上となっている現状では、トータルコストを考慮した更新・修理の判断が必要です。現在は、固定資産の耐用年数に基づいて更新サイクルを設定していますが、今後は実態に即した見直しが不可欠です。



3 こんな技術を求めています！

- ポンプ設備の延命予測技術、劣化診断・状態監視技術、更新サイクル最適化支援技術、ドローン・自動巡回技術との連携

4 技術の導入により代替が期待される業務

点検診断業務の自動化、更新時期の判断業務、修繕計画の立案業務、記録報告業務の効率化、緊急対応業務の削減

5 事業規模・業務量

ポンプ設備（67台）

川8 自動薬剤注入システム

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

水質の安定を前提とした運用方針のもと、台風や有害物質の発生などを職員が蓄積されたデータや経験則により予測し、必要な薬品を適切な量で準備しています。このプロセスにフィードバック機能を備えた自動化技術の導入を検討しています。

2 課題の詳細

これらの予測・準備作業をAIやデータ分析技術により自動化できれば、職員の負担軽減や業務の効率化が期待されます。特に、経験の継承が難しくなる将来に向けて、属人的な判断をシステム化することは、持続可能な運用体制の構築に寄与すると考えられます。さらに、フィードバック機能を備えた自動化システムを導入することで、薬品注入後の水質変化などの結果をリアルタイムで取得・分析し、その結果を次の判断や投入計画に反映させることができます。

3 こんな技術を求めています！

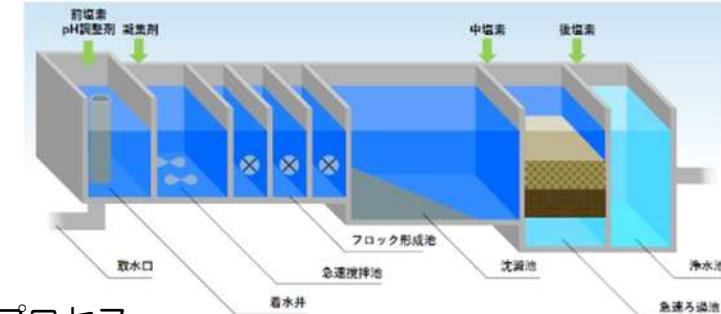
- 薬剤使用量の予測技術（AI・機械学習・フィードバック）、在庫管理・ロジスティクス技術、気象・災害予測連携技術、職員支援システム（意思決定支援）

4 技術の導入により代替が期待される業務

薬剤注入量の調整作業、薬剤の在庫管理・発注業務、水質汚濁時の対応判断、職員教育・技術継承

5 事業規模・業務量

作業頻度：適宜対応（浄水場前処理）



浄水場の水処理プロセス



最適化のイメージ

川10 浄水処理障害原因生物検出システム

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

これまで季節ごとに異なる時期に発生していた生物に起因する浄水処理障害が、昨今の気候変動によって同時に複合的に発生することが増えており、浄水場では対応に苦慮している。原因生物の検出には専門的な知識を持つ職員が属的に行っているが、計装装置により連続的に測定できれば、迅速検知することができ浄水処理障害リスクが低減化すると考えます。

2 課題の詳細

原水に含まれる生物を画像に取り込み、AIに学習させ、浄水障害原因生物となる珪藻・緑藻・藍藻類を分類し、生物量の計測ができると、発生する障害の種類と発生兆候、障害規模、傾向を把握することができ、業務が一般化され作業量も削減される。

3 こんな技術を求めています！

藻類固有の光合成色素の吸収波長などの画像解析と深層学習を用いて藻類を検出、分類し、数や面積から生物量を測定し、生物障害の原因となる藻類を連続的に計測する。

想定される技術：AIを用いた藻類検出技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

これまで専門知識を持った職員が対応していた生物の顕微鏡観察、計数業務

川12 共有サーバ内データの検索・整理

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

所属部署内における業務の共有および職務の効率的な遂行を目的として、公文書の管理も兼ねて、共有サーバへ関連データを保管しております。これにより、複数の担当者が同一のデータを取り扱うことが可能となり、担当者の異動が発生した場合でも、円滑に次の担当者へ業務を引き継ぎ、継続して対応する体制を整えております。

2 課題の詳細

ファイル名の付け方やフォルダの分類方法が担当者ごとに異なり統一された管理が十分に行われていない状況です。また、同一の資料が複数の業務フォルダに保存されることがあり、最新版の判別が困難となるケースも発生しています。さらに、管理ルールを定めても運用が徹底されず、解釈の違いによってファイル整理が進まないという課題もあります。加えて、過去に作成された未整理の資料については、対応が難しい状況です。

3 こんな技術を求めています！

共有サーバ内のファイルをAIで検索・要約し、該当ファイルへのリンクを付することで、実際のファイルへのアクセスを容易にしたい。

また、同じ資料やバージョン違いの古い資料などの整理もサポートしてほしい。

4 技術の導入により代替が期待される業務

資料を簡便かつ迅速に探し活用できるようになることで、業務の効率化が期待できる。

AIによる概要 Google データ整理の手法について

データ整理には、ファイル命名規則とフォルダ構造の整備、ショートカットの活用、データクレンジング、そして「データディクショナリ」や「表形式」の活用などが挙げられます。これらを組み合わせることで、データの検索性・活用性を高め、効率的なデータ管理が可能になります。

データ整理の具体的な手法

- フォルダ構造と命名規則の整備
 - フォルダ分け：プロジェクトや用途ごとにフォルダを分けることで、ファイルの検索性を高めます。
 - 命名規則の統一：ファイル名やフォルダ名に一貫したルール（日付の形式、バージョン番号など）を設けることで、ファイルの管理が容易になります。

5 事業規模・業務量

共有サーバの容量、規模

300GB(1所属当たりの平均) × 50所属(局) + 150GB × 50複数所属共有サーバ

松3 AIを活用した水運用

求める技術：①

1 課題を抱える業務の内容

地下水を水源とする浄水場は、複数の井戸から取水しているため特に渴水時には、周辺井戸への干渉や取水障害を生じないよう配慮が必要なことから、従来からの経験則を基に各井戸の水位をモニタリングしながら慎重な水運用を行っています。

一方で、地下水の分析や調査は継続的に行っており、これまでの成果が実際の水運用にも活用できいか検討しています。



2 課題の詳細

本市では、水文資料の取集・分析、水文地質調査、水循環解析モデル（MIKE SHE）を活用した地下水賦存量調査や地下水流動解析調査など行っており、こうした成果と現場の経験則を結び付けたAI技術があれば、効率的な水運用だけでなく技術継承の課題解決にもつながります。

3 こんな技術を求めています！

- 気象条件などの諸条件を入力すれば、地下水位を予測できる技術
- 一つの井戸の取水量を増やした時（減らした時）に他の井戸への影響を予測する技術など、目に見えない地下水の取水に役立つ技術